

第4回京都府スーパーサポートセンター公開講座 平成25年8月20日(火)

『不登校など二次障害の予防』 報告



講師 プール学院大学 学生支援コーディネーター
京都府スーパーサポートセンター 府専門家チーム
松久 眞実氏

京都府スーパーサポートセンター 府専門家チームでも毎年お世話になっている、プール学院大学学生支援コーディネーターの松久眞実先生をお招きし、上記のテーマで実施しました。松久先生の講座は、昨年度大変好評で、今年度は中丹支援学校にお世話になり、北部会場での実施が実現しました。51名の方に御参加いただきました。

- 二次障害とは：心理社会的ストレスにより、二次的に起こる心や身体・行動などの変調
- 二次障害を防ぐために児童生徒につけたい力
 - ◆自尊心を損なわない
 - ◆自己コントロール力をつける
 - ◆仲間のいいところを見つける
 - ◆ストレスへの対処
- 発達障害の子どもをつつむクラス作り「安全でいじめのないクラスは、最大の支援」
あったかクラス作戦：集団指導の具体的な取組を提唱

- ①「いがいが言葉」を減らす
- ②森レベル・林レベル・木レベル
- ③「静寂の時間」を増やす
- ④怒るより、笑えるタイムアウト
- ⑤叱るのはあっさり、行動はしつこく
- ⑥上品と下品
- ⑦3秒ルール
- ⑧「あと4分27秒で終わります」
- ⑨先生ドリル
- ⑩「自力でAを勝ち取ろう」

- ⑪7割以上の全体の指示以外は、近づいて小声で
- ⑫ぼくのおまじない
- ⑬早口でなく、ゆっくり毅然と。相手の興奮はトーンを変えてかわす
- ⑭具体的指示
- ⑮記念日遊び
- ⑯教室では、目から、耳から～先生のポケット
- ⑰連絡帳を字の指導に使えば、一石二鳥
- ⑱ソーシャルスキルカードをクイズ形式で
- ⑲クラス認定あだな・ともだちじまん
- ⑳将棋・囲碁・オセロ・トランプなどを有効に使う

☆松久先生の著書を参考にしてください。

明治図書『あったかクラスづくり』—通常の学級で無理なくできるユニバーサルデザイナー—
明治図書『あったか絆づくり』—発達障害の子どもを二次障害から守る—

○好意に満ちたクラス作り

好意に満ちた語りかけ：子どもを信じる・言い分を聞く・責めない

悪意に満ちた語りかけ：子どもを疑う・決めつける・責める・嫌味や皮肉を言う

アンケートより

クラス・学年の子どもたちを思い浮かべながら聴き、2学期の始まりから実践していきたいと思いました。教室を飛び出す子どもたちは「どうせ僕なんか」「やっても意味ないし」を口癖にしていました。学年でスモールステップでほめる機会を増やし、自尊心を高めて子どもたちが楽しく過ごせるような学校にしたいと思います。（小学校）

自尊心が低い生徒が多く、自己コントロールも弱いので、学習指導や生徒指導に困難を感じる事が多くあるが、松久先生の実践を参考にさせていただいて指導に生かしていきたいと思いました。（高等学校）

不登校などの二次障害を防ぐために、個人への関わりも大切だが、二次障害を引き起こさない環境づくり、クラスづくりも大切だということに改めて実感しました。また通常学級での大変さを含め、クラスでできる支援や方法を具体的に教えていただき、非常に勉強になりました。（特別支援学校）